

事務事業 No./名称	■サービス部門 健康福-24 □支援部門 老人センター等管理運営事業						
主管課	高齢者いきいき課	関連課					
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	高齢者の教養の向上と身心の健康増進						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考 ・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人			
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
運営資源状況	事業の対象者数						
	決算値(千円)	190,384千円	203,667千円	207,936千円			
	(国・県)	5,933千円	0千円	2,180千円			
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円			
	(一般財源)	184,451千円	203,667千円	205,756千円			
	人員配置数	0.8人	0.8人	0.8人			
	人件費(千円)	7,118千円	7,492千円	7,542千円			
事務事業運営経費	協働のパートナー	無	無	無			
	総事業費(千円)	197,502千円	211,159千円	215,478千円			
	市民1人当りの経費(円)	1,115円	1,195円	1,220円			
	対象者1人当りの経費(円)	3,194円	3,415円	3,555円			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
60歳以上対象者数延利用者数		目標値	61,843人	61,843人			
		実績値	155,020人	155,003人			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。											
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。											
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止											
老人センター等管理運営事業	190,384千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒	□A	■B	□C	□D	□E
	事業の概要	名越やすらぎセンター、教養センター、今泉さわやかセンター、玉縄すこやかセンター及び老人いきいきの家こゆるぎ荘の管理運営業務を、指定管理者に委託した。													
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A	□B	□C	□D	□E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A	□B	□C	□D	□E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A	□B	□C	□D	□E
	事業の概要														

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)	
H22年度の課題	利用人数を拡大する。
課題解決のための取組	利用者アンケートを行い、ニーズを把握しながら、講座・教室などの内容充実や夏期の開館時間延長など改善に努めた。
未解決の課題	利用人数の拡大
今後の方針	利用ニーズに応えるべく指定管理者・利用者と協議をしながら改善に努めていく。
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止 ⇒ B ※ □事業完了 課長名 高齢者いきいき課長 筒谷 正明

